

令和元年度
第1回 北九州市地域バイオマス安定供給検討会
会議内容（結果）

【会議概要】

日時：2019年10月21日 14:00～15:30

出席者：官民15団体19名（うち市役所関係2部局4名）

【議題次第】

- 1 これまでの取組（平成27～30年度）
- 2 令和元年度の取組について
 - （1）市域内バイオマス供給体制の確立
 - ア 市有林の伐採事業の進捗状況
 - イ 需要把握調査
 - ウ 現在のバイオマスを取り巻く状況について調査
 - （2）竹バイオマスの利活用の検討
 - ア 北九州市の竹集材と利活用の状況
 - イ 竹先進地事例の調査
 - ウ 竹の集材、チップ化等に関する調査
- 3 今後のスケジュール等について

【会議結果】

- 1 これまでの成果の確認と今後の展開
 - ・これまでの検討会の振り返りとして、山林に放置される未利用材等を有効活用することについて検討を重ねた結果、木質バイオマスの安定供給体制が整いつつあることが報告された。
 - ・また、本年度は、これまでの「北九州市地域バイオマス有効活用検討会」に新たなメンバーを加え、「北九州市地域バイオマス安定供給検討会」として、北九州市内に立地するバイオマス発電所への木質バイオマス供給調整を図るとともに、小規模施設への熱エネルギー供給事業を進めていくことが関係者間で確認された。
 - ・北九州市の木材の搬出は「森林・林業マスタープラン」にもとづき、今年度、市有林をモデルに伐採を進めていくことが報告された。

2 主な意見

■木材の伐採、利活用

- ・現在、木材の A 材、B 材は不足している状況であり、製材を行えば必ず引き合いがある状況である。A 材、B 材は需要も大きく、できるだけ民間事業者も含めコストを抑えた林産を実施するため、中間集積場等の整備や再造林の支援などをお願いしたい。
- ・北九州エリアは、素材生産が非常に少なく、現在、林産活動を推進するための研修等を行っており、今後も研修を進めていきたい。

■FIT 関連

- ・発電所へのバイオマスの供給について、市内で発生する木質・竹材バイオマスの FIT 上の区分や必要量を明確にすることが重要である。
- ・今後の認定団体の検討を行うのであれば、別途協議会組織を設置し、森林組合等の生産者側の意見が聞けるような組織体制が望ましいと考える。
- ・FIT 価格が地域内の建築廃材や生木に比べ輸入材のほうが高価なため、地域内材が利用されない状況が生じ、課題と感じている。

■放置竹林対策関連

- ・竹林伐採計画等の放置竹林対策については、今後も共有していただきたい。
- ・竹専焼バイオマスボイラー導入については、うまく稼働していない事例も見受けられることから、竹材の搬出コストやボイラの検討などは厳密に行う必要がある。
- ・竹チップの燃料化の実証試験を行っており、今後もこの成果を共有しながら竹バイオマスの利活用について検討していきたい
- ・放置竹林のリスクについて、市民には十分に理解されていないと感じる。今後、啓発を行う必要がある。

以上

令和元年度 第1回 北九州市地域バイオマス安定供給検討会
参加者名簿

No.	団体・企業名
1	福岡県 八幡農林事務所 林業振興課
2	福岡県 行橋農林事務所 林業振興課
3	福岡県 企画・地域振興部 総合政策課 エネルギー政策室
4	北九州市森林組合
5	ホクザイ運輸株式会社
6	株式会社守恒造園建設
7	清水産業株式会社
8	株式会社 MOT 総合研究所
9	九州電力株式会社
10	ダレスサンドロジャパン株式会社
11	株式会社 伊万里木材市場
12	日鉄エンジニアリング株式会社
13	NPO 法人里山を考える会
14	北九州市 産業経済局 農林水産部 農林課
15	北九州市 環境局 環境国際経済部 地域エネルギー推進課